

日本人女性における妊娠中のソーシャル・キャピタルと妊娠中の身体活動量との関連

著者	杉山 将太
号	88
学位授与機関	Tohoku University
学位授与番号	医博第3894号
URL	http://hdl.handle.net/10097/00126360

氏名	すぎやま しょうた 杉山 将太
学位の種類	博士(医学)
学位授与年月日	平成31年3月27日
学位授与の条件	学位規則第4条第1項
研究科専攻	東北大学大学院医学系研究科(博士課程)医科学専攻
学位論文題目	日本人女性における妊娠中のソーシャル・キャピタルと 妊娠中の身体活動量との関連
論文審査委員	主査 教授 永富 良一 教授 寶澤 篤 教授 吉沢 豊子

論文内容要旨

【背景】妊娠中に適切な身体活動を確保することは、母体と胎児の健康に対して重要である。妊娠中の身体活動は身体的な変化によって制限されるが、妊婦は身体活動を含む社会的な支援や日常生活の信頼関係を必要とするため、社会的な支援と信頼が妊婦の身体活動に好ましい影響を与える可能性がある。したがって、本研究は日本における妊娠中の認知的ソーシャル・キャピタルと妊娠中の身体活動量との関連を検討することを目的とした。【方法】対象者は、妊娠初期に研究に同意した妊婦 3793 名であった。妊娠中の認知的ソーシャル・キャピタルは、妊娠中期に自記式質問票により 4 側面(精神的な支援、近所の信頼、治安、一般的な信頼)を 9 項目から評価した。各認知的ソーシャル・キャピタルの側面は得点化し、それぞれ 2~4 分類した。妊娠中の身体活動量は妊娠中期に国際標準化身体活動質問票の日本語版尺度の短縮版により評価した。対象者は妊娠中の身体活動量のガイドラインに基づいて 150 分/週以上(適切な身体活動量)、および 150 分/週未満(不適切な身体活動量)に分類された。一般化線形混合効果モデルを用いて、各認知的ソーシャル・キャピタルの側面の得点が最も低い群を基準とした身体活動量の推奨レベルを満たすオッズ比ならびに 95%信頼区間を算出した。【結果】潜在的な交絡因子で補正後、妊娠中の精神的な支援と妊娠中の身体活動量には正の関連が認められた(傾向性 P 値=0.002)。妊娠中の精神的な支援と出産経験の交互作用は統計学的に有意ではなかった(交互作用 P 値=0.440)が、出産経験による層別化分析の結果、未産婦において潜在的な交絡因子で補正しても妊娠中の精神的な支援と妊娠中の身体活動量には正の関連が認められた(傾向性 P 値=0.007)。さらに、妊娠中の近所の信頼と出産経験の交互作用は統計学的に有意ではなかった(交互作用 P 値=0.489)が、出産経験による層別化分析の結果、経産婦において妊娠中の近所の信頼と妊娠中の身体活動量には正の関連が認められた(傾向性 P 値=0.031)。【結論】日本人女性において、妊娠中の精神的な支援は妊娠中の身体活動量と正の関連を示すことが明らかとなった。出産経験による層別化分析の結果、未産婦においては妊娠中の精神的な支援と妊娠中の身体活動量との正の関連を示し、経産婦においては妊娠中の近所の信頼と妊娠中の身体活動量との正の関連を示すことが明らかとなった。

審 査 結 果 の 要 旨

博士論文題目日本人女性における妊娠中のソーシャル・キャピタルと妊娠中の身体活動量との関連

所属専攻・分野名医科学専攻.....運動学.....分野.....

学籍番号.....B5MD5070.....氏名.....杉山 将太.....

本研究は、個人要因だけでなく社会環境要因も身体活動量と関連することが報告されるなか、社会的な繋がりとそこから生まれる信頼などといったソーシャル・キャピタルが成人における身体活動量と正の関連を示すという先行研究に着目し、身体活動が身体的な変化によって制限される妊婦においても同様の関連が認められるのかを検討するために、日本人女性における妊娠中の認知的ソーシャル・キャピタルと妊娠中の身体活動量との関連を検討することを目的とした。

妊娠初期に研究に同意した妊婦 3793 名を対象に、生活習慣（質問票）や妊娠中の認知的ソーシャル・キャピタル（質問票）に加えて、妊娠中の身体活動量（質問票）の評価も実施した。解析方法に関しては、一般化線形混合効果モデルを用いて、各認知的ソーシャル・キャピタルの側面の得点が最も低い群を基準とした身体活動量の推奨レベルを満たすオッズ比ならびに 95%信頼区間を算出した。分析を行った結果、潜在的な交絡因子を考慮しても、妊娠中の精神的な支援と妊娠中の身体活動量には正の関連が認められた。さらに、出産経験の有無による層別化分析の結果、未産婦においては精神的な支援と身体活動量に正の関連が、経産婦においては近所の信頼と身体活動量に正の関連が認められた。

妊娠中の認知的ソーシャル・キャピタルと身体活動量の正の関連を初めて示した本研究の結果は、妊娠中に身体活動が身体的な変化によって制限される妊婦においても精神的な支援が得られていると身体活動に好ましい影響を及ぼすことを世界に先駆けて重要なメッセージを発信する研究成果である。さらに、未産婦においては身体活動に対する精神的な支援の重要性、経産婦においては身体活動に対する近所の信頼の重要性も発信する重要な研究である。

よって、本論文は博士（医学）の学位論文として合格と認める。